

農の架け橋 地域と共に

— 白子町農業委員会だより NO. 28 —



令和2年2月
編集・発行/
白子町農業委員会

農業委員及び農地利用最適化推進委員を皆さんに紹介します。

「未来農業への礎」…農業基盤整備事業の果たす役割

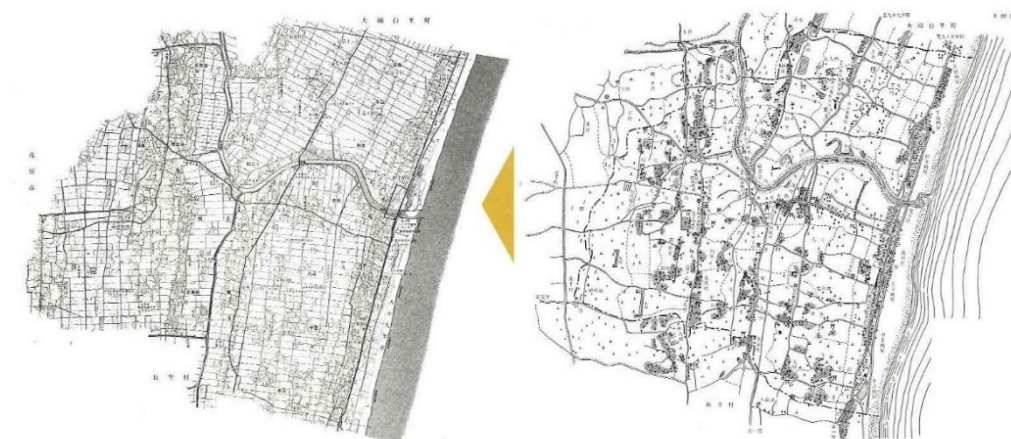
白子町幸治 細谷 勝 さん（農業委員）

本町の土地改良事業(県営ほ場整備事業)は、県下で1番目の事業として、昭和38年に南白亀地区を着手し、続いて東郷・関地区、松瀧地区と、ほ場整備を実施し、昭和50年度までに田畑合わせて1500haが現在のよう

に整備されました。幸治地区の細谷さんは、まさにその時代に携わった一人であり、現在は、農業委員会法の改正により新たに設けられた、農業者以外委員(中立的な立場で公正な判断をする)を務めています。「昭和44年に茂原土地改良事務所(現:長生農業事務所)に勤めていた頃、長生管内は盛んに土地改良事業が行われていました。地元の工区で事業説明会を行い、当時の役員の方には大変お世話になりました。従来の平面図に30aの区画線を入れ、数十筆点在した田畑が整然とした土地となり、完成したときの嬉しかった思い出が今も脳裏に浮かんできます。」と、当時の話をしてくれました。



「しかし、時代の変化と共に、農業者の高齢化や後継者不足により、当時整備された農地の遊休化または荒廃が進んでしまっており、心が痛みます。遊休農地の解消に努めることはもちろんのこと、荒廃する以前に地権者の意向を把握し新たな耕作者を斡旋するなどの事前対策が必要。さらに、農業生産性の向上に向け、農地の連担化による集積・集約が急務と考えます。勤めていた時とは立場が変わりますが、これからも地域農業発展のため皆様と共に取り組んでいきたいと思



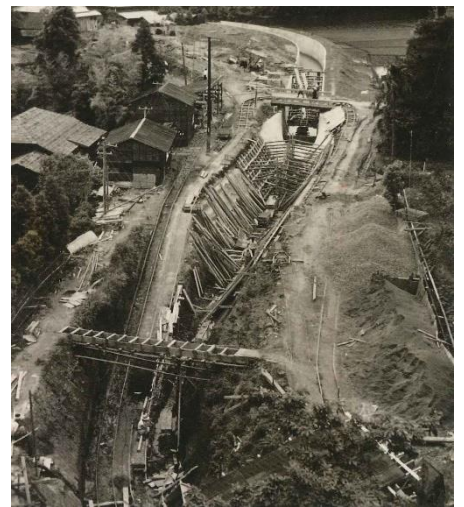
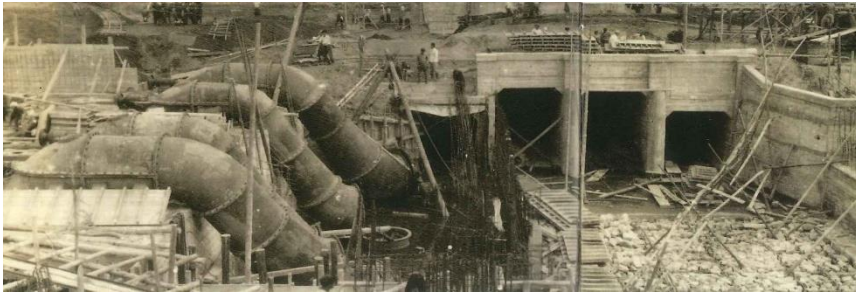
【全国にさがかけた大改革
土地改良事業】



「龍神を造った男たち」-両総用水について ②

○千葉県農業を変えた両総 ～両総用水事業～

昭和21年6月、天皇陛下の行幸が契機となり公共工事として認可を得て、翌年、営団の廃止とともに事業は農林省に引き継がれますが、戦後、国は緊急の国営水利事業を多くの地域で行っており、資金の制約が厳しく、結局5年間事業はストップしたままでした。そんな中で、アメリカの見返り資金の話が舞い込んできます。占領政策の円滑を図るために日本とドイツに支給された経済復興の援助資金がインフラ整備に割り当てられました。もちろん、この資金の獲得を狙って全国各地から多くの手が上がります。十枝、坂本両氏に、東金市長の能勢剛氏、両総事務所長の瀬戸忠武氏 が加わり、3週間分の食糧を携えての4人の決死隊は、関係各局へ夜討ち朝駆けの訪問、有無を言わせぬ熱弁等を行い、その猛攻ぶりは当時のGHQの中で語り草になったようです。そして、昭和25年8月、見返り資金5億円の援助の知らせを受け取り、一気に工事は全面着工となりました。



佐原地区に排水機場を設置するとともに大須賀川も改修し排水改良が図られ、九十九里平野は利根川の水をポンプで吸い上げ北部幹線(7.6km)を通して栗山川に放流。沿線の農地に配水するとともに中流にて揚水し、南部幹線(38.8km)さらに西部幹線(5.3km)を通して約18,000haの農地を潤し、事業費は当初1,986万円であったが、戦後のインフレの影響等により年々増加し、計画の変更または施行年度の延長等により、最終的に事業費は60億590万円でした。

昭和40年、ついに両総用水の幹線水路が完成。9月19日に東金市で関係者が参列し盛大な竣工式が挙行されました。そして、支線の用排水路工事が全面終了したのは昭和48年。実に、30年という長い年月を要しました。

利根川右岸の佐原地域を排水不良から救い、慢性的な水不足に苦しめられてきた九十九里平野を潤し続けてきた両総用水も、年々施設の老朽化が進み維持管理に関する経費が増加するとともに農業経営の変化に対応した新しい施設の建設が求められるようになったため、その後、平成5年から平成26年にかけて、新たな国営事業として施設更新事業に着手し、施設の機能維持・回復を図るとともに、幹線用水路のパイプライン化、東部幹線水路を新設するとともに排水施設の機能強化を行い、現在に至っています。



時が経ち世代が代わり、農業の取り組みそのものが変化している現在では、その歴史を忘れがちになりますが、水はあらゆる生命の源であり、あらゆる産業の資源であることは未来永劫変わりません。先人たちが命を賭けて築き上げてきた資産を、さらに良いものとして次世代に引き継いでいくことが、私たちの使命だと思います。

引用文献 『龍神を造った男たち』-両総用水・その歴史的意義と資産性

『国営両総農業水利事業完成記念誌「両総用水のあゆみ」』

(制作: 関東農政局両総農業水利事務所)

「広報しらこ「両総用水」(つれづれの記 144)」